

校訓 『高く 大きく 美しく』

教育目標

「誇り高く 夢大きく 心ころ美しく
よりよい社会を創ろうとする生徒の育成」

中村中学校 学校通信 NO.16 2023.12.23 発行 TEL 0880-34-4137 : 文責 山崎利彦

2学期の終業式 ～今の自分を見つめ、更なる成長のステップへ！～



2学期のスタートは、まだ夏の暑さが残る8月29日でした。あれから約4カ月、季節も秋・冬へと移り変わり、昨日はこの四万十市も雪景色となりました。そして、今日が2学期の終業式です。

さて、2学期は運動会や文化祭など、生徒が活躍できる場面が数多くある学期でしたが、生徒の皆さんは2学期をどのように振り返りますか？私は、少しずつ学校行事もコロナ前のような対応ができはじめたことから、**アフターコロナを実感した学期**でした。4年ぶりに開催された四万十川ウルトラマラソンは、その象徴的なイベントだったと感じています。本校からもたくさんの生徒がボランティアとして参加しましたが、学校の中では経験できない体験や感動を味わえたようで、生徒にとって“貴重な学びの場”にもなりました。一方、2学期の後半には、インフルエンザも流行気味で欠席者が増えたときには心配もしましたが、何とか休校にせず乗り切れたことはホッとしています。

さて、この冬休みは、年末やお正月など、家族や親戚が集まることも多いと思います。**生徒の皆さんにとって、少しでも安らいだひと時が送れることを願っています。**そして、全員の元気な顔が1月9日の始業式で見られることを楽しみにしています。充実した冬休みを過ごしてください。

6年生の体験入学 ～約170名の児童が本校にやってきました！～

12月8日(金)、6年生対象の体験入学を実施しました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、体験入学を中止としたのですが、今年は少しでも中学校の雰囲気や様子を体験してもらうことができ本当によかったです。**新生徒会執行部が作成した学校紹介の動画も、学校の雰囲気が伝わる内容でとてもよかった**と思います。

さて、今年度本校の体験入学に参加した児童は、校区内外を含め、約170名でした。小学生は少し緊張した様子もしていましたが、部活動を体験し終わってからは、『面白かったです！』と元気な表情で体育館に集まってきました。先輩が優しく声をかけてくれたり、教えてくれたことがうれしかったと感想も言ってくれました。

6年生にとっては、新鮮な午後の半日だったと思いますが、中学生にとっても先輩としてのいい姿を見せる貴重な行事となりました。どの部活動を見ても“ぜひ下級生に入ってほしい!!”という上級生として思いが伝わる対応がとれていたことをうれしく思いました。

来年度の新入生が何人になるのかは、まだ未定ですが、4学級以上となるのは確実です。在校生を含め、本校の生徒数は今年と同様に幡多郡で最大です。これからも、学校生活、授業、部活動で各校をリードできる学校となれるよう、みんなで歩んでいきたいですね。



《冬休み・1月上旬の主な日程》

- ◇12月23日(土)午後、25日(月)、26日(火) 学期末面談
- ◇12月25日(月)、26日(火) **英・数の補習** ①8:20~9:00 ②9:10~9:50
※2コマで実施します。この期間、部活動は補習終了後から開始です。
- ◇1月9日(火) 3学期始業式
- ◇1月10日(水) 3年生実力テスト
- ◇1月17日(水) 本校で四万十市1校1役研究大会 ※給食終了後、生徒は13時半頃に下校。

ジョブカフェ高知「出前講座」や3年の“進路選択”を通して

～約40年前の選択～

2年生の総合的な学習の時間では、「ジョブカフェ高知」の方に来ていただき、将来の仕事のことやその基盤になる能力の話をしていただく機会を持ちました。また、3年生は、進路選択を決める大事な三者面談がスタートし、私学等を受験する生徒は面接練習も始まっています。そんな教育活動に携わっていると、ふっと自分の“仕事の選択”を懐かしく思い出しました。

どの生徒にも自分の意志で人生を切り開き、豊かな人生を生きてほしいと願うばかりですが、この教職という道を選ぶことになった私の出会いを少し紹介することで、**人との出会いを大切にしてほしいというメッセージ**を伝えたいと思います。赴任した学校で、時々、話したり書いたりしたことがありますので、もしかしたら知っている人もいるかもしれませんが、少し紙面をお借りします。

大学に進学した私（今でもその機会を与えてくれた親には感謝しています）は、初めから教職という道を選んだわけではありません（最初は教職に進む考えは全く持っていなかったの…）。偶然にも京都である先生のお手伝いをするアルバイトに就きました。もともとは体育の先生でしたが、病気で視力を徐々に失い、退職後、社会復帰の訓練を行い、仕事に復帰されていた先生です。その当時、先生は養護学校（今は特別支援学校）に勤務をされていました。私は先生が借りていたアパートに夕方出向き、学校から持って帰った書類を先生が言われる形で整理し、翌日の社会科の準備をするのが役目でした。週2～3回、1日約2時間程度のアルバイトでしたが、この先生との出会いが私を教職へ向けさせました。また、振り返ればお金をいただいて、授業ではないところで社会科教員としての教材研究をさせてもらっていたように思います。感謝しかありません。

視力をほとんど失った者が職場復帰を果たした例は当時まだなかったとのことでしたが、教え子たちの署名活動があり教職に復帰でき仕事を続けてこられたこと、中学校教員から養護学校に異動しても生徒の人生の基礎をつくる仕事に携わっている喜びなどをアルバイトの合間に聞くと、**そんなに学校の先生っていいものなのかなあ？**と思うようになり、2回生から教職課程を履修してみることにしました。そして、教育実習で充実感を味わったことから、企業への就職ではなくこの道を歩む選択をしたことです。

人生のターニングポイントというものがあるとすれば、私にとっては**この先生との出会いが人生のターニングポイント**だったと思います。きっと、それぞれの方にその人なりの出会いがあると思いますが、私にとってはそれが大学時代でした。そんな昔のことを思い出すたびに、生徒もどこかでいい出会いをしてほしいといつも思っています。

中学校までは義務教育です。しかし、その後の道は自分で選択し、自分で歩む道です。生徒がどんな力を高め、どんな人間性を磨くのか楽しみですし、生徒には可能性がいっぱいあると思います。その可能性を信じて努力をし、毎日の生活を充実させてほしいとも思います。**1月に入れば最後の学期です。どの生徒にとっても年度のいい締めくくりができるよう、ぜひ自分の可能性を信じて頑張してほしい**と思います。

皆さん、良いお年をお迎えください。